

平成23年度川崎区区民会議フォーラム

日 時 平成23年12月10日（土）午後1時30分  
場 所 川崎区役所7階会議室  
午後 1時30分 開 会

出席者（敬称略）

（1）委員 15人

魚津利興、荒井敬八、島田潤二、赤間靖夫、石渡勝朗、猪熊俊夫、木島千栄、小泉忠之、  
富田順人、朴栄子、服部正夫、深澤香織、星川孝宜、宮崎とみ子、吉野智佐雄

（2）参与 2人

嶋崎嘉夫、栄居学

1 開 会

荒井副委員長 ただいまより川崎区区民会議フォーラムを開催します。

魚津委員長 <開会のあいさつ>

区長 <あいさつ>

〔区民会議委員及び参与の紹介〕

2 東日本大震災被災地への派遣職員による活動報告

荒井副委員長 東日本大震災被災地で活動された市職員の報告をお聞きします。報告者は、  
消防局臨港消防署警防第1課長の鈴消防司令長です。

鈴消防司令長 こんにちは。臨港消防署の鈴と申します。東日本大震災の状況を報告しま  
す。

〔東日本大震災被災地への派遣職員による活動報告〕

荒井副委員長 鈴消防司令長、ありがとうございました。川崎市の消防局の大活躍、危険  
を顧みず、救済に当たっていただきましたことを改めて御礼を申し上げます。

3 講演「地域活動によって地域が変わる～今、私たちができること～」

荒井副委員長 川崎市自治推進委員会委員の大下勝巳さんからお話を伺います。

大下氏 皆さん、こんにちは。大下です。きょうはこういう大事なフォーラムに川崎区からお声をかけていただいて、大変光栄に思っております。川崎区の区民フォーラムは、着実に地道な努力を続けているという印象を強く持ちまして、今さら私がここで皆さん方に何も申し上げることがないというくらいですが、せっかくお声をかけていただいたので、私の体験も踏まえて少し話をさせていただきます。

私は平成17年に宮前区の区長を賜りました。それまでサラリーマンをやっていたので、行政の区長という話をいただいたときに非常に戸惑い、行政の経験もないのにいきなり区長ができるわけではないと思ったのですが、市長から、行政と市民の距離を縮めるのが任務だと、市民サイドから区長になって、市民の立場で行政との関係をつくり直せという話をいただき、行政の経験がなくていいのかと言ったら、むしろないほうがいいのだと、市民から雇って、2年3年やっているうちに、いつの間にすっかり公務員になっていたというのでは、市民から選んだ意味がない、ずっと市民のままでやれという檄を飛ばされて、アマチュアながら、素人ながら区長をさせていただきますということで、やらせていただきました。

最初の17年度は区民会議の試行期間でした。18年度と19年度と2年間、第1期の区民会議をやりました。あわせて3年間、私は区民会議とおつき合いをしました。そのときに区民会議というシステムはすばらしいと思いました。なぜかというと、市民の地域に対する思い、行政に対する考え方、意見を区民会議委員の20人の中に集約し、優先順位を決めて議論し、地域の課題を協議し、自分たちで審議しながら、これが大事だ、今、やらなければいけないことを考えて、自分たちで決めて、区長に報告しながら、区長は区長の立場でどう解決していくか考えていく。この仕組みが、川崎はすごいことやるのだと思って非常にびっくりしたことがあります。それまでにおやじの会とか、多少地域のことをやっていましたが、そこまで行政が一生懸命やるのかと。その後で知ったのですが、ほかの自治体で、こういった区民会議のシステムをきちんと導入して、区役所の改革と同時に市民自治の実践の場として、市民が参加してやっていくシステムはほとんどないのです。横浜市も似たような制度がありますが、公聴で、行政が市民の意見を聞いて、行政が判断してやっていく。ところが、川崎市の場合は、区民会議があって、いろいろな分野の人たちが集まって、ネットワークを形成しながら、課題を選定して、解決策を話し合っ、自分たちで審議するという先端的なことを実施している。その年に、区長をしたことは、非常に緊張しましたし、体験をさせてもらいました。

地域課題を解決していくことが区民会議の一番の目的です。20人の委員の中には公募の人、区長推薦の方がいますが、各ジャンルの異なった分野の人たちが出ています。区民会議は異なった分野の人たちが一堂に会して、自分たちのふだんやっている分野の活動を超えて、区全体としての立場、視点から、何が課題であるかを議論する場です。そういう視点が区民会議をやっていく上で一番大事なことです。区民会議の一つの大きな

役割は、異なった分野の人、団体、違うジャンルの人たちがどう川崎区というところで一致して、日常生活の中のつながり、あるいは各世代間のつながりをつくっていくことが一番の大きな課題ではないかと思います。人のつながり、コミュニティーづくり、人間関係をどうつくって、信頼関係をつくっていくか、人々の間で、そこをどうやって構築していくかができていれば、さまざまな課題が解決していくのではないかとつくづく思います。区民会議を担当したときに順番を間違えないほうがいいと思いました。宮前区でも、そのことを何回もみんなと話し合いました。区民会議というのは、もちろん地域課題解決ですが、その前段として、どう人のつながりを、人のきずなを、いざとなったときに機能する、どうつくっていくか。例えば災害が起こったり何かがあったときに、日常の人のつながりが生きてきて、それが防災その他に役立つ、あるいは災害があったときに立ち直りに役立つということをつくづく思いました。

きょうのテーマは「地域活動によって地域が変わる」です。もちろんそうなのですが、それによって、地域活動に参加した自分が変わることがすごく大きなことだと今さらながら思っています。地域に参加することによって、その体験が、私から公サイドの入って行って、自分自身が変わっていくという、無形の報酬のようなものは、自分自身の意識や行動、人のつながりがどんどんふえて行って、それがまたばねになって、次の課題に向かっていける、自分自身が変わることは非常に大きなことだと思います。そのよさを地域に参加されている皆さんは、まだ参加されていない皆さんに対して、地域活動を一緒にやりませんかというときに、参加することによって、自分自身も変わっていくのだ、自分自身が変わっていくことによって地域も変わっていくし、自分の人生も変わっていくのだということをぜひお伝えいただければと思います。

私は40代のころは働き盛りの会社人間で、朝7時過ぎに出て行って、夜11時ごろにしか帰ってこない、セブーンイレブンおやじと言われていました。男は仕事、女は家庭、地域という言葉がまかり通っていた時代です。仕事に生きがいを感じて、会社で人生、燃焼する、家庭、地域は妻に任せたということが通っていたときに、川崎市は、このままでは男たちもだめになるし、地域も家庭もだめになるから、今のうちに手を打たなければいけない、川崎都民を川崎市民にしなければだめだというので、おやじ学級を立ち上げました。私は、子供が2人いて、十分おやじだと、おやじになるために勉強する必要はないと言っていましたが、行政としては、違うねらいがあったのです。同時に、川崎市民としての意識を持ってもらうにはどうしたらいいかというのがあって、2週間に1回、土曜日の夜、おやじ学級が10回ありました。そこに出ていったのが発端で、それまでは我が子のおやじだけだったのが、解散してしまったら、もとの会社人間に戻るだけではないかと、せっかく地域で知り合った、15、16人のつながりができたのだから、ふだんは全く会ったことのない会社人間が、このつながりを生かしていこう、大事にしていこうというので、おやじの会を立ち上げました。子供はたまにしかおやじの顔を見

なくて、お父さん、いたかと、久しぶりに会って顔を合わせたら、子供が言ったというので、その言葉を会の名前にして、おやじの会「いたか」をつくって、もう30年近くになります。そのつながりが会社人間を変えたのです。そのつながりによって、川崎都民の会社人間を、川崎市民にどこまでなっているかはともかくとして、川崎市民の意識を持たなければいかん、一人の男は、仕事人間だけではないのだと、地域のおじさんでもあるし、家庭ではおやじでもあるし、いろいろな意味合いを持っているのだということをつくづく思われました。

小学校低学年の子供のために40代の男たちがこのこ出ていって、今では、川崎の6団体のおやじ連、川崎おやじ連、神奈川県のおやじの会のネットワークができて、何百人という人のつながりができています。それぞれの地域で何かお祭りやイベントをやるときは、手伝ってくれと言うと、わーっと飛んできてくれます。3年ぐらいに1回、おやじサミットinかながわをやっています。小学校低学年の子供に引っ張られて、子供のためだといって出ていったのですが、何年かたって気がつくとおやじの友達がいっぱいできて、子供というのはすごい力を持っているなど、こっちが何かやってやったつもりだったのが、その何十倍も何倍も返してくれて、おやじのつながりというのは一生涯のものだという、そういう地域のつながり、地域の子供、地域の人を育てる力があるのです。そういうことを区民会議をなさっている皆さん方もぜひいろいろな方におっしゃっていただきたいと思います。

そのころ、粗大ごみという言葉がはやりました。女性たちは、会社人間のふだん地域でも家庭でも役に立たない男たちを、男社会ではそれでよかったのですが、樋口恵子さんがつくった言葉で、「粗大ごみ、毎朝出すのに、夜戻る」と言って、女性たちは男たちを揶揄していたのです。でも、男たちはまだぴんと来ていなくて、何で悪いのだ、それでいいではないか、稼いでいるのだからとあほなことを言っていたのです。そんな家や地域で粗大ごみの男たちが、学校に呼ばれて、こま回し、ベイごま、竹馬乗り教えてと、子供たちは先生と言ってくれるのです。これを僕らは、粗大ごみのリサイクルと言って、地域というのは偉い、人を変える力を持っている、人を別の面からまた見てくれるのだ、子供というのは大人も育てるのだと、すごく印象深かったことを覚えています。

おやじの会をやるに当たって、我が子のおやじから地域のおやじへと、そういう意識転換が起こったのです。我が子のおやじをやっているときは個人の個ですが、おやじ同士で一緒になって、地域のために何かできないかという、おやじが意識し始めたら、我が子のおやじではなくて、地域のおやじになっていくのです。子から公へ移っていく。そういうプロセスを体験できたというのが地域活動のすごさです。忙しい会社の人たちも、あるいは定年退職した皆さんも、もっと地域に入っていくことによって、新しい自分が開発される、新しい自分と出会うのではないかと思います。区民会議をなさっている皆さん方はそんなことは百も承知だと思いますが、そういう意識を多くの市民の皆さ

んにもお伝えいただいて、ご自身の変化を伝えながら、公に携わっていくことのやりがい、おもしろさをお伝え願えればと思います。

合意する力、地域力は何だろうか。ある学者が言っている、社会関係資本という言葉があります。この言葉に出会ったときに、そういうことかと思いました。社会資本という場合は道路、港湾、橋とか、ハード系のものです。関係が入るということは、人間関係のことを言っているのです。地域の力というのは、いかに地域の人間関係力があるか、それが地域の力なのだと。地域の課題を解決していく力なのだとことを言っているのです。それが社会関係資本と言われているもので、3つあるというのです。それは人々のつながり、お互いに顔見知りになって、そのつながりから生まれる信頼の関係、あいつの言っていることなら一緒にやってみようかとか、二つ返事で乗って、地域の課題解決と一緒にやろうかという信頼関係、そして、お互いに都合が悪いときはカバーし合うというか、ボランティア精神、お互いさまの精神、この3つが社会関係資本の関係に意味があるのです。別の言葉で言えば、人間関係力とか、社交力という言葉、そういう力をどうやって育てていくかというのが、コミュニティーづくりの中で一番大事なことだと言われています。区民会議に非常に大事な役割は、社会関係資本、人のつながりをつくり、信頼関係をその中に醸成して行って、そして、お互いにボランティア精神で、地域の連携ができていく、そういうコミュニティーをつくるのが、区民会議としての大きな役割の一つではないかと。そういう地域ができてくれば、課題がそこに投げられれば、課題が解決していくと言えるのではないかと思います。

子ども部会、高齢者部会、環境部会、さまざまな課題があり、それはすばらしいことですが、これを解決していくには、地域の人間関係力とか、地域のつながりが必要ですから、どちらが先かというのではなくて、子ども部会の中でも親が会う場所づくりとか、いろいろな世代の人が会う場所づくりとか、さまざまな課題がありますが、そのベースにあるのは地域での地域力、みんなで合意して、社会関係資本をつくっていく。

事実、社会関係資本という言葉はともかくとして、つながりと信頼とお互いさまのボランティア精神のある地域社会は、ある学者が調べたら、犯罪の発生率が低いのです。人間関係がそれほど密でない地域と人間関係が濃い地域では、犯罪の発生率が違う。もう一つ、出生率も違うのです。日本はデータとして出ているのです。その辺のところも頭に入れておいたほうがいいのではないかと思います。

この話をあるところで申し上げたら、終わった後で、ある女性が来て、出生率の問題は本当だと思うと言われました。娘が夫と一緒に、ある地方に行っているのです。その方は子供が2人いて、都会ではこれ以上だめだと思っていたのですが、地方に行って2年ぐらいしたら、電話がかかって、もう一人子供を産みますと言ったというのです。この地域の人たちはみんな優しく、子供を抱っこして歩いていると、近所の人たちが寄ってきて、みんな気遣ってくれる、こういうところだったらもう一人大丈夫と思ったと

いうんです。これが、人間関係力のある、濃密な地域関係の中でのお互いの思いやりと  
かつながりとかあるところだと、子供を産みたくなるということがあったという、これ  
は一例にすぎませんが、そういうことがあるのです。データの的にもそれは裏づけられて  
いるのです。そういう地域社会をどうやってつくっていくかというのが、大きな課題で  
あると思います。

さまざまな地域課題がいっぱい出てきていますから、すべて行政だけが担う時代では  
ないのです。市民と一緒にあって、担っていくのですが、そのキーワードは、協働です。  
行政と市民の協働をどううまく運用しながら、地域の課題を解決するか。区民会議も協  
働の場です。市民だからできること、行政だからできることはあるのです。それは別々  
にやるよりも、一緒になってやったほうが、1足す1は3の効果が出るというところで、  
協働、協力して働くという考え方が生まれてきたのです。協働をどうやって進めていく  
かということですが、協働を進めていく上で、人のつながりと信頼の関係と、お互いさ  
まのボランティア精神がある社会でこそ、協働というのが成り立つということです。そ  
こが非常に大事ではないかと思えます。

行政がすべて担えないというのは、社会のほうがどんどん新たな問題が出てくるから  
です。最近では認知症の問題があります。若年認知症の問題が結構多いのです。長谷川一  
夫先生という、元聖マリアンナ医科大学の学長で、日本の認知症研究の第一人者です。  
認知症かどうかをはかる長谷川式スケールをつくり出した人です。その先生の話を知り  
たのですが、認知症というのは特別なことではありませんとはっきり言っています。加  
齢とともに起こってくるもので、だれにでも起こることです。かつて認知症はぼけとか  
痴呆と言われていたのを、認知症に名前を変えたのも長谷川先生です。平均寿命が50と  
か60だと認知症が起こることは少なかったのですが、70、80になってくると、加齢によ  
ってだれにでも起こることになってきた。その認知症の人たちをどうやって地域でカバ  
ーしていくか。今、230万人ぐらいいるそうですが、施設では無理なので、地域で何とか  
していく。このことも高齢社会の中で新たな地域課題に出てきているのです。税金を使  
って行政だけで230万人の認知症を面倒を見るとえらいことになりますから、それはでき  
ない。それは地域社会の中でお互いがカバーし合いながらやっていく。そのためにも人  
のつながりと人間関係力が要ることなのです。そういう新しい問題が、子育ての  
問題からいっぱい出てきています。それに直に対応していくために、コミュニティーづ  
くりの基本的なことが非常に大事ではないかと思えます。

行政はどちらかというところ、公平性、平等性とか、税金を使っているんで、ある意味の  
制約があるのです。思いついたからこっちで使おうというわけにはいかないのです。当  
然のことですが、法律で決まっているのです。10年計画を立てて、それを3年ごとに見  
直しをしながらやっていくわけですね。その間に新たなことが起こってきた場合、即座に  
対応するのは、行政は大型船みたいなもので、急に曲がれないのです。そこは地域の人

人間関係力は市民が持っているので、そういう力を発揮しながら、さまざまな社会問題に対して機敏に対応していく。それは市民だからできるのです。しかし、行政は資金もあるし、法的な裏づけがあるから、きちっとやれることはやれるので、そういう行政と市民が組みながら、お互いの特性を発揮しながら、異なる立場だけれども、共通の目標に向かってやっていく、それが協働の精神だと思います。区民会議は協働の場づくりということで、非常に大事になってくると思います。

この前、日野原重明先生のお話を聞きました。日野原先生は100歳になられましたが、マイクを持ったまま壇上を行ったり来たりしながらお話になるのです。よく通るお声で、お元気で、非常に感銘を受けました。老いることは楽しいと言うのです。そういう心境においてになるということは大変なことだと思いました。普通は、おれも年だからといって、加齢ということをもろ受け入れがたい、拒否するようなどころがあるのですが、先生は、老いることは楽しいことだ、なぜか、それは今までにやれなかった新しいことにチャレンジできるからだということをはっきりおっしゃっています。これからの高齢社会をどうするかというのは、少子化と同時に高齢化、認知症の問題も含めて、コミュニティ、地域社会の中で大きなテーマです。その中で、老いてなお楽しいという地域社会、そういう人間関係をどうやってつくっていくかというのは、非常に大きいことではないかと思います。生きる目的、目標をきちんと持つ、それが長生き、いつまでも元気である秘訣だと。それと同時に、目標とか目的、生きがいはそこに絡んでくるわけですが、生きがいも地域活動と非常に絡んでくるのです。

生きがいに3つの形があると言われていています。1つは趣味などの自分自身のやりたいことをやる。2つ目は、家族、友達、知り合い、目の届く範囲の人のためにやる。3つ目は、地域社会のために、自分の持っているものを出して何かやる。3つになるほど、生きがいの濃さが濃くなるという話です。地域参加をすることのおもしろさ、地域参加で自分自身が変わっていく、自分自身が変わることによって地域の役に立っている、だれかの役に立っていること、それも生きがいで、やりがいで、張り合いです。それは自分自身の個人的な趣味を満たすのと、地域のためにやりがいがあって、地域の人喜んでくれて、あなたが来てくれたから、頑張ってくれたから、こんなによくなってよかったわと一言言ってくれるのと、質的に違うものがあるのではないかと。それが人をいつまでも元気にして、元気なことを生かしながら、また地域のためにやっていく。そして、人間関係の中で自分の役割を果たしていく。そういううまい循環ができていけば、高齢社会も乗り切れるのだと日野原先生は話しておられました。地域の中での役割、自分自身がだれかに必要とされていると感ずることができることは、生きがいと張り合いとやり合いができる。必要とされるためには、自分一人の趣味をやっていただけではだめなのです。もちろん否定するわけではありません。大事なことです、だれかに必要とされている、自分が来ることを待っていてくれる人がいる、そういうことは地域が必

要です。地域社会の中の人間関係があってこそ、自分が必要とされる、自分が年をとったけれども、子供たちの元気な顔が見たいから行って、子供たちが喜んでくれる、また来てと言ってくれる、そこへ行く、行くだけで役立っているわけで、自分が必要とされている。それが地域の人との関係をつくって行って、子育て支援にもなる。そういう関係づくりをどうやってつくっていくかが非常に大事ではないかと思います。

日野原先生は、人間の体は、休みなく、切れ目なく使い続けることとおっしゃいました。使うことをやめたら、使わない分だけ衰えるということなのです。人間の体はそういうふうに行っているのだと。使い続ける場が地域社会であればなおいいと。お役に立てるような体を仲間と一緒に切れ目なく休みなく使い続けるような場、それが地域社会である。地域活動は地域を変えるのですが、同時に、自分自身を変えて、変えた自分がまた地域に役立っていくという、そういういい循環をつくっていかねばと。区民会議というのは、そういう意味で、非常に貴重な役割と機能を持っていると思います。その区民会議を支えていらっしゃる皆さん方、区民会議の委員のお役目というのは、川崎のコミュニティーづくりにとって非常に大事です。

私は自治推進委員のメンバーもしています。各区のいろいろな取り組みも報告していただいているのですが、それぞれ工夫を凝らしながらやっています。それぞれの地域課題は違いますが、どうやったら人間関係の密度の濃いコミュニティーをつくっていくか、そのベースは同じです。それをきちんとやりながら、各地域の課題を解決していくという二段構えになって、区民会議の力はこれから大いに発揮されていくのではないかと思います。そして、それによって地域に参加することで、個人の生きがいや生涯も変わってくる、それとセットになったところに、区民会議のおもしろさ、よさがあるのではないかと思います。

それでは、パワーポイントを見ていただきます。

[パワーポイント]

共同というのは、共に同じことをやる共同があります。同じ目的のために、同じ条件と資格でかかわっていく。

協力して同じことをやる、協力して同じ活動をするというのは、農協とか、いろいろなところがある。

協力して働くという場合は、違う立場の特性を生かす。自分自身がこうやりたい、ああやりたい、こんなことをやったらおもしろいのではないかというのではなくて、地域の公共的な課題です。そのためには、地域がうまく合意していないといけません。課題を共有するということです。それから、違う立場で共通の目標達成に取り組むのです。行政と市民団体、企業との協働です。個別にやるよりも、互いの特性を生かして、1足す1は3になる。区民会議で地域の課題を決めて、解決策の概要があって、主な役割がある、区民会議、区民、市民団体、行政の役割がある、それから、解決に向けた取り組



みのスケジュールをきちっと決めながらやっていくことが非常に大事だと思います。

これは異なる立場だからこそ、協働をやる意味合いがあるのです。市民とか、活動団体は、市民活動の経験が豊富なスタッフが多いです。行政の場合はさまざまな理由があって、2年3年で交代していきます。地域に住んでいる人はずっと住んでいるわけですから、人間関係が密度です。これが力になるのです。地域の幅広い人脈を生かせるでしょう。人脈を持っている地域の人たち、これは市民、あるいは市民活動団体ならではありません。経験をベースにして、地域のニーズに根差した企画、アイデア力があるというのは、市民及び市民活動団体が持っている力です。それと行政の持っている力と一緒にして、1足す1は3の成果を上げていくのが協働です。区民会議をやっている皆さんのふだんの生活の中から出てくるこういう力が、いかに集約して、大きな力にして、発揮させていくか。それが区民会議の役割だと思います。

かつては、公共イコール行政、公イコール行政になっていたのです。市民も高度成長期のころは、おれたちは税金を払っているのだから、行政、しっかりして、まちづくりをやれと言って、それで済んでいるのんきな時代だった。今はそういう時代ではないです。バブル崩壊、阪神・淡路大震災があって、95年、ボランティア元年と言われて、自助、共助という言葉がこのときに出てきたのです。まず、自分のことは自分でやる。自分でできないことは地域で一緒にやる。自助、共助、共に助け合う。そして、これがだめなときは公、行政に頼む、公助。自助、共助、公助という段階です。自助、共助抜きにして、行政、何とかせいという時代ではなくなってきたということです。自助、共助の役割を区民会議が担いながら、これは公助が必要だという判断もしていく。公のあり方を考え直す。公を行政のみが担うのではなくて、市民と行政が公を共に担うので、公共と言うのだという考え方があるのですが、うまいこと言うなと思います。公共だから、公を共に担うのです。新しい公共ということは最近の政権が言い出したように思われていますが、よく調べてみると、阪神・淡路大震災のときからあった言葉です。あのとき、全国から何万人というボランティアが阪神・淡路に駆けつけたのです。行政が面倒を見るだけではできないから、全国のボランティアが集まって担った。そのボランティアの活動が、これは公的だ、公共の仕事だという認識ができたのです。新しい公共というのはそこから生まれたと言われていています。

左側が公、官、行政、右側が私、民です。かつては、公私、官民という言い方をして、間がなかった。今は協働で、公共の領域、真ん中に、協働によって、市民と行政がお互いに担っていく、公を共に担う領域がちゃんとできています、ここをちゃんとやりましょうというのが、市民自治の精神です。それが区民会議にもつながっていくわけで、この間が新しい公共なのです。かつて、公では、行政だけでは担えなかった新しいニーズがいっぱい出てきています。子育ての問題、高齢者介護、認知症、地域の自主防災、緑、里山、ごみ問題、町の活性化とか、こういうのを全部行政にやれというのではなくて、

市民が引き受けながら行政と協働で解決していくという、そういう方向性です。

協働の成り立つ背景としては、社会関係資本、人とのつながり、補完性、自助、共助、公助、補い合う、自助でできないところは共助、それがあって、協働が成り立つということです。

社会資本と社会関係資本。関係が入るか入らないかで全然違うのです。社会関係資本の場合、人間同士のつながりです。社会関係資本は、地域力、人々のつながりと、つながりから生まれる信頼関係と、お互いさまの気持ちとのボランティア精神で、これを社会関係、地域力と。犯罪発生率が低い、出生率が高い、地方分権が定着しやすい、この地域力、人間関係力は大きいです。

補完性の原理というのは、理屈はともかくとして、自分や家族でできることはやる。うちの前に街路樹の落ち葉がいっぱいたまっているから、すぐ行政は掃除しに来いという電話があって、びっくりことができました。自分の前の落ち葉はちゃんと自分で掃除したいものです。それは自助、共助、公助と関係があるのですが、そういう意識も中にはあったということです。

地域活動によって地域が変わる、自分も変わる、人生を豊かにする秘訣は、自分自身が変わることです。養老猛先生を呼んで話をしてもらいました。人生を豊かにする秘訣は自分自身が変わるのだと。よそを変えるのではないと、まず自分自身が変わることによって、世の中が違うように見えて、理解が進んで、そして、それに対して自分が生きていくことで、自分の人生が豊かになるのだ、間違えるなど言われたことが非常に印象深いです。

ご清聴、ありがとうございました。

荒井副委員長 実践家としての具体的なお話をちょうだいしました。学者の意見とはやっぱり違うなど拝聴しておりました。ありがとうございました。

午後 2時52分 休憩

午後 3時 再開

#### 4 パネルディスカッション「第3期川崎区区民会議の取組を振り返って」

荒井副委員長 これよりパネルディスカッションに移ります。

[コーディネーター及びパネリストの紹介]

大下コーディネーター パネルディスカッションを始めます。

まず、高齢者部会から取り組みの説明をお願いします。

星川部会長 <「第3期川崎区区民会議の審議・取り組み経過」に沿って説明>

大下コーディネーター 続いて、子ども部会から取り組みの説明をお願いします。

朴部会長 <「第3期川崎区区民会議の審議・取り組み経過」に沿って説明>

大下コーディネーター 続いて、環境部会から取り組みの説明をお願いします。

木島部会長 <「第3期川崎区区民会議の審議・取り組み経過」に沿って説明>

大下コーディネーター 会場の皆様のご質問も含めて、意見や感想がありましたら伺いたいと思います。

区民 稲毛神社の側の国道の植え込みの雑草をとっていたところ、雑草はとらないでください、温暖化防止のためにあるのだと、だから、余計なことはしないでくださいと言われたことがあります。川崎区は、雑草、ドクダミはとらない方針なのでしょうか。最近、もう一人の方にもドクダミはとらないでくださいと指摘されました。そういう時代になったのかと、私は二、三日、寝られませんでした。川崎区をそういうふうにしたくないと思いますが、大下さんのご意見も踏まえて、お願いします。

木島部会長 川崎区は非常に緑が少ないと認識していらっしゃると思いますが、ドクダミも花ではありませんか。

区民 雑草も緑ですか。

木島部会長 雑草危害を加えるようなものですとか、周りの木に影響するものですとか、害になるということでしょうか、花そのものをめでるという意味ではいかがでしょうか。稲毛にある植木がドクダミがあることによって影響を受けているのであれば、とったほうがいいと思います。川崎はどこを見ても、ビルがあるので、お花がどこにでもあったほうがいいのかと思いますが、いかがでしょうか。とるなとは言いません。

区民 私は80歳ですが、両手を使って雑草をとるということは、ぼけ防止にいいと言われて、一生懸命やっています。喜んでくれる人もいます。会場の皆さん、どう思いますか。街路樹に草が生えてもいいんですか。ほとんどの植え込みは栄養失調です。

荒井副委員長 今のご意見は、温暖化を阻害するから、雑草も緑だからとってはいけないのだというお話をされたということなのでしょう。私は初めて聞きました。雑草をとってはいけないというのはどういうところから来ているのか、私も知りませんでした。雑草はとってもいいのではないですか。15号線の元木町のところに雑草が生えて、缶がいっぱい落っこっていて、川崎の恥だと思って、何とかならないかと思って通過しています。雑草をとってはいけないということは聞いたことがありません。何か曲解されているのではないですか。

区民 私は子供関係の活動をしています。「区の花」「区の木」の募集があつて、選考委員を務めさせていただきました。とてもいいことだなと思っています。きょうも富士見通りを来てみますと、イチョウが黄色に輝いて、素敵な町だと感じています。活用について、子供たちから応募も多かったと聞いていますので、子供たちも含めて、地域全体で、緑化に向けて、いろいろな活動が広がっていけばいいと思って期待しています。私も花いっぱい運動などをしておりまして、お花は人と人の心をつなぐ、つながりをつくってくれる、とても大事なものだと思っておりますので、ぜひ有効活用を期待しています。

木島部会長 制定委員会にご参加いただきまして、ありがとうございます。「区の花」「区の木」が制定されて決まりましたら、来期からまた取り組みことになると思います。区民委員の方々の意見を反映させながら、もしかしたら学校関係もということになるかもしれませんが、そういったところで広い範囲で審議を重ねながら活用していきたいと存じます。

大下コーディネーター 子ども部会では5つの柱がありますが、限られた人数と時間の中では大変だと思います。場合によってはもう少し絞るということは意見交換の中では出ていませんか。

朴部会長 5個は多いのではないかという意見は初めからずっとありまして、全体の会議の中でも絞る提案もありました。私たちもやりながら絞るという話もあったのですが、何を絞るのかというところで、結果がすべてではないというところでは、考えていくことを大切するということが、特に子供の居場所というところは、即、結論が出ないだろうと初めから覚悟しましたが、このことを審議から外してはいけないのではないかということです。最終的に居場所のところは結論が出ないまま、来期につなげていくことになると思いますが、このことをみんなで考えていこうということを伝えることを大事にし

ようと思って、5つそのまま続けています。

大下コーディネーター 一つ一つの柱を見ると、現在の子供のことを考えると、本当に外せない大事な課題であり、テーマです。ただ、どこか関連づけがあれば、一緒に議論することがあってもいいのかなと思いました。議論の過程が大変だと思いますが、ぜひ頑張ってくださいと思います。

高齢者部会の取り組みの審議課題の中で「生きがい、社会貢献」とありますが、その審議課題が課題解決策の中に盛り込まれているとっていいわけですか。その辺の兼ね合いをお話しいただければと思います。

星川部会長 特に高齢者、中でも男性が定年退職した後、ひきこもりになってしまう方が多いという話をいただいて、地域デビューとか、社会貢献という視点で考えようということもあったのです。そこまで手を出せないというところで、むしろそこは健康づくりという意味で、ウォーキングマップ、町歩きをして、健康づくりをするところから、少し無理があるのですが、生きがいに結びつけばというぐらいで、本格的な取り組みとしては、今回は解決策からは落ちているということです。

区民 小田地区に住んでいるので、コミュニティバスの件で高齢者部会の活動に力を入れていただきたい。小田地区の民生委員の団体は、今度の定例会にもこういうものを皆さんに積極的にアンケートを出していただいて、小田地区、大師地区のコミュニティバスに積極的に取り組んでほしいし、私どもこの活動に全面的に協力したいと思います。ぜひ高齢者部会の皆さん、頑張ってください。エールを送ります。

星川部会長 どうもありがとうございます。コミュニティバスは、その方がどこに住んでいるかによって見方が随分変わってくるだろうと思います。当事者意識になったときに、小田地区、中央地区、大師地区と、川崎区内を大きく3つに分けたとき、地域特性が恐らくあるだろうということで、アンケートも大きく2つに分けて、質問内容はほとんど同じですが、中央地区のコースを設定したときは皆さんどういうふうにお考えですか、大師地区、小田地区を巡回させるコースについてはどういうふうにお考えですかとお尋ねしています。区民会議でできることは、アンケートをとるところまでと考えています。もっと深く検討するには、検討委員会、協議会的なところで、多方面から検討を重ねていただかなければいけないと考えております。アンケートで皆さんの考えを率直にお聞きしたいというところです。

区民 区長さん、ぜひ川崎区の市長になってもらいたい。今、川崎区は、富士見公園、堀

之内、南町、これは区長の権限外だと継子扱いしています。それを川崎区は働く町ですから、区長が市長になって、市長にこうなさい、ああなさいというような力を持ってもらいたい。市長は公選制で、区長は任命制ですが、7区が一つではないですから、川崎区は別ですから、ぜひ豊本ミニ市長になっていただいて、全部を支配してもらいたい。これは企画調整だとか、へちまだとか言わないで、おれに任せろと言ってください。JR川崎駅の中央通路を私に80歳になって通るのは怖いです。携帯を持った女性がぼんとぶつかってきます。転んだことが2、3度あります。JR川崎駅の混雑を何とかできませんか。よろしくお願いします。

区長 地方分権ということで、市のほうの特に本庁と、今まで出先機関だった区役所の役割分担はかなり変わってきております。具体的には、道路、公園の関係、去年は保育所との関係、来年はこども文化センター、わくわくプラザ、こういった施設系についても区の業務の移管になってきています。つまり、身近な行政課題を身近なところで解決していこうというあらわれですので、富士見公園だから関係ないとか、そういうことは申し上げているつもりはありませんので、あらゆる課題について貴重なご意見をいただければと思います。

魚津委員長 今、社会問題になっていますが、川崎区は平らなところですので、駅の放置自転車がが多いので、何とかならないというのが、区民会議でまず第一に出ました。そういう問題になると、区民委員で解決することではなくて、公共性の問題になってくると、動いたせいもあって、駐輪場ができたり、最近では、放置自転車の数が少し減ってきたということもあります。警察にも話をしましたが、ぶつかってけがをしたり、死亡事故も出ているので、その辺のことは言うだけ言ってということです。

それから、子ども部会にしても、テーマが多いということはわかっているのですが、それについても、いいものは継続して行っていきたい。その期間にまとまらなくても、その次に課題としてやっていったらいいのではないかとということで、これからもお願いしたいと思います。

川崎区は、外国人が多いということで、3・11のときには、パニック状態になったという話もありました。その辺の声は行政にも届いていなかったもので、そういうことも聞いて、大事にしていかなければいけないと感じます。

朴部会長 3・11のときには、私たち言葉のわかる者はテレビやニュースを見て、どうしたらいいのかということを探しましたが、言葉のわからない外国人は、どうしていいのかわからないと、家の中に入ることが怖いということで、公園に皆さん集まっていました。地震を体験したことのない国からいらっしやっている方もたくさんいますので、

その後どうしていいのかわからないということがありました。その地域の人たちが、自分たちの地域にこんなに外国人がいたことに驚いたようです。日進町でもたくさんの方たちが集まっています。川崎区は翻訳をして、携帯で外国人の方々に区の情報を流しています。その中で停電のこと、地震のときのことをお知らせしたりということは、1週間ぐらいたってからでないとできませんでした。圧倒的に情報が少ない状況なので、今後、これから大きな地震が起きるだろうと言われている中では、外国人の人たちへ情報を提供していく方法を早急に考えていただきたい。防災訓練と一緒に参加できるような取り組みができると、経験をすることで実際に起きたときには状況が変わってくるので、そんなことをこれからお願いしたいと思います。

大下コーディネーター 地震の経験のない国の方は大変びっくりしたでしょう。貴重なご提案、ご提言をいただいて、ありがとうございます。

予定では参与の皆様方の意見をいただくことになっているのですが、いらっしやいませんね。

荒井副委員長 きょうは大下さんがおいでになるということで、しめしめと私は思いました。というのは、川崎市の自治推進委員の方のお一人です。7区の区民会議のお目付役という立場です。私どもは残念ながら、各区の情報が無いのです。隣は何をする人ぞということなのです。各区が縛られることなく、それぞれの特色をあらわにしてつくってもらおうというのが阿部市長の考え方で、それでいいのだと思います。私は自治基本条例の副委員長として、区民会議をつくるもとの条例に携わった者です。そこでもう7年たちまして、制度疲労を起こしている部分がたくさんあります。それから、制度設計し直さなければいけない部分が出てきていると個人的に思います。私どもの区民会議が非常に認知度が少ないというか、区民の方たちに関心を持ってもらえない。傍聴においでになる方は皆無です。何をやっているのだというのがちまたの評判です。

それは考えてみますと、区民会議の性格から言えば、極端なことを言えば、地域の課題を調査、研究するだけなのです。調査、研究してまとめたものを区長に答申して、そこでどうなるのかわからない。私どもがやっているのは、区長がそれをどうまとめて、どういう予算化をして、今、どういう予算でやられているのかということは、私どもには情報として伝わってきません。私は物好きなので、どうなっているのかと思って調べてみました。平成23年度の川崎市一般会計予算を見ましたら、この厳しい予算の中で、阿部市長は、区役所費は前年度より6億円も増額して、ことしの区役所費は142億6000万円のお金を使っています。川崎区は12億2700万円の予算を獲得しています。7区の中でトップです。ところが、内容、款項目を調べてみたら、ハードの面がトップで、ソフ

トの面は7区の中で一番少ない。要するに川崎区には地域の課題がないのです。余り皆さんが満足して、これ以上、何とかしてくれというものがいいのか、あるいはあきらめてしまっているのか。言ったってしようがないのだというふうなことで、傍聴にもおいでにならないということは、私ども幹事会としては非常に反省しなければいけないのですが、来年度はぜひそういうことのないようにやっていかなければならない。

それにはやはり制度改革をしなければいけないと思います。予算というものに対して、前広に、今年度はこういう答申があって、これを事業化するにはこれだけの経費が必要だということで、市のほうにこういうふうな要求したとか、結果としてこうなったという報告です。私どもが予算を動かそうなんて大それたことは考えていません。本来から言えば、その予算に対してクレームをつけてもいいのかもしれませんが、それは区民会議として認められているかどうか疑問なので、そこまでやらなくても、こういう予算が通って、こういうふうなやっていくのだという情報がないのです。何のために我々は汗水たらしてやったのかなという思いが一部にあります。この辺のところは自治推進委員会のテーマとして、直すべきものは直さないと、いつまでもたっても、区民会議は何やるところなのというような一般区民の考え方があって、やっている我々としても、力がつかないというか、がっかりしたようなのが、私の今までの6年間の感想です。何とかしなければいけないと、次期の委員の皆さんには頑張ってくださいと思います。

区民 幾らやります、やりますと言っても、実際にやらないから、もうあきれて来ないのです。

荒井副委員長 それでは自治基本条例の意味がないですから、頑張ってもらわなければいけないと思います。

大下コーディネーター 荒井さんは以前に自治推進委員をおやりになっていますが、私は今たまたま委員をやっていますので、今の意見を拝聴して、ちゃんと委員会のほうに反映できる機会をつくりたいと思います。きょうは承りましたので、ありがとうございます。

荒井副委員長 ぜひよろしくをお願いします。

大下コーディネーター 閉会のあいさつをお願いします。

## 5 閉 会

島田副委員長 <閉会のあいさつ>



大下コーディネーター これにてパネルディスカッション・意見交換を終わります。

荒井副委員長 以上で川崎区区民会議フォーラムを閉会します。

午後 4時1分 閉 会